

令和8年度第1回設楽町総合計画／まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会

会議録

日時：令和8年7月13日（月）午後7時から午後9時まで

場所：設楽町役場議場

出席者： 審議会委員（出席14名、◎は会長）

熊谷浩一 委員（愛知東農業協同組合 総合企画部長）

関谷健 委員（設楽町商工会長）

伊藤昭広 委員（設楽町教育委員）

金田季也 委員（設楽町小中学校長会 代表）

伊藤美香 委員（設楽町キラリンとーぷ 所長）

小西勇基 委員（町民公募、子育て）

白井靖明 委員（豊川信用金庫 新城中央支店長）

清水貴裕 委員（株式会社あかり）

◎渡辺哲広 委員（津具どっとこい）

黒岩祐治 委員（まるごと名倉 代表）

近藤友樹 委員（THE TAGUCHI CULTURE CLUB 代表）

加藤沙弥 委員（株式会社みらいび）

峯田絵美子 委員（愛知県立田口高等学校 校長）

松井祥悟 委員（matchbox 代表）

欠席委員（5名）

園原明子 委員（町民公募、子育て）

高松哲也 委員（一般社団法人設楽町観光協会 事務局長）

伊藤隆啓 委員（北設楽郡医師会 伊藤内科）

金田治久 委員（愛知県淡水養殖漁業共同組合）

佐々木 公仁 委員（設楽町森林組合 参事）

事務局：企画ダム対策課長ほか課員4名

受託者：名古屋大学4名

関係者：設楽町役場各課職員10名

奥三河デザイン編集部 1名

・審議会の成立について

出席委員14名で本審議会が成立した

1. 会長あいさつ

議事の説明：

■ 住民フォーラムの開催結果の報告について

フォーラムに審議会のメンバーも登壇し、パネルディスカッションという形でいろいろお話を聞いた。地域の代表の方に多数参加していただき、議論の中で積極的に発言されたり、いろいろ意見を書いた付箋がどんどん貼られたり、非常に有意義なフォーラムだった。地区のことをよく把握されている各地区の代表から意見を聞くことができた。

■ 設楽町第3次総合計画、第3期総合戦略の計画案の審議について

今後の計画の構成や基本目標、行動指針の考え方が、設楽町の将来を示せるものとなっているかという視点で、今日は審議をいただきたい。いろいろな意見を委員の皆さんから聞きたい。

総合計画を作るのが目的ではなくて、どうやって運用していくかという点が大事になるかと思う。有意義な会議にしたい。

2. 議事

(1) みんなで語ろう 設楽のこれからフォーラム開催結果について

【資料1-1】「みんなで語ろう 設楽のこれから フォーラム」開催報告

【資料1-2】みんなで語ろう 設楽のこれから フォーラム アンケート結果に基づき受託者から説明。

○ 質疑・意見

(委員)

住民フォーラムには登壇者として参加したが、想像以上に多くの方に参加いただき、多数の意見やアイデアが付箋として寄せられた。

また、当日は登壇者の発言を収録しており、現在運用しているポッドキャストで配信できるよう準備を進めている。参加できなかった方にも、町の取り組みやフォーラムの様子を知っていただける機会となるため、こうした情報発信を継続していきたいと考えている。

一方で、参加者アンケートには「前回から進んだ感じが少し足りなかった」との意見があり、自身も同様に感じた。会の目的や、参加者から出された意見が今後どのように計画や具体的な政策につながっていくのかが分かりにくかったため、次回以降は会の目的や位置付けをより明確に示すことで、計画が前に進んでいることを実感できる内容になるのではないかと思う。

(受託者)

昨年度の町民会議から継続して参加している方にとっては、内容に大きな変化が感じられなかった部分もあったと思われる。一方で、今回のフォーラムは、これまで町民会議に参加していなかった方からも意見をいただき、新たな視点やアイデアを収集することを目的の一つとして開催した。

現在は計画策定段階であり、施策の進捗や成果を示す段階ではないが、昨年度の住民会議及び今回のフォーラムでは、具体的で参考となる多くの意見やアイデアをいただくことができた。

これらの意見については、計画への反映だけでなく、今後各課が事業を実施する際の参考や、地域との協働につながる貴重な財産として活用していく。計画が実行段階に移行した際には、これまでいただいた意見やアイデアを整理し、住民に見える形で還元していきたい。

(2) 設楽町第3次総合計画／第3期総合戦略概要版の作成について

【資料2】総合計画概要版「したらの未来ブック（仮称）」企画案に基づき事務局から説明。

○ 質疑・意見

(委員)

概要版について、「読みたくなる」「読みやすい」「参加したくなる」という考え方はよいと思うが、読みやすさを重視するあまり内容が薄くなり、何を伝えたいのか分からなくなってしまうのでは意味がない。最も大切なのは内容がしっかり伝わることであり、その点に配慮して作成していただきたい。

また、概要版は興味を持ってもらい、計画本文へ誘導する役割もあると考える。概要版では広く分かりやすく内容を伝え、詳細はQRコード等を活用して計画本文を閲覧できるような構成もよいのではないか。

成果物の形式については冊子も一つの方法だが、若い世代はスマートフォンで情報を得る機会が多いことから、デジタルでの閲覧も意識した構成が望ましい。また、A3両面を折りたたんだ程度の情報量であれば、見やすく手に取りやすいのではないかと思う。どの程度の情報量が適切かについても、十分検討していただきたい。

(事務局)

企画はこれから具体的に詰めていくため、いただいたご意見やご指摘を踏まえながら、調整を進めていきたい。

(3) 設楽町第3次総合計画／第3期総合戦略 計画案について

【資料3】設楽町第3次総合計画／第3期総合戦略 計画案に基づき受託者から説明。

○ 質疑・意見

(委員)

基本構想、基本理念、基本計画、基本目標など、似た用語が多く使われており、それぞれの違いが分かりにくい。基本構想の中に将来像があり、それを実現するために基本目標や施策があるという構成が伝わるよう、用語や構成を検討した方がよいのではないか。

また、まちづくりの分野では、マルチワークが担い手不足の解消策として位置付けられているが、「副業」と受け取られると、労働法制上の制約などから多様な働き方を阻害することもあり、企業側としては活用しにくい。

さらに、インフラや森林・農地の維持管理などについても課題は示されているが、それに対して具体的にどのように取り組んでいくのかが見えにくい。景観や観光、人工林の整備、耕作放棄地への対応などについても、方向性が伝わる記載が必要ではないか。

どのように予算を確保し、誰が担い、どのように実現していくのかという行政の考え方や覚悟が見えにくい。概要版ではそこまで踏み込まなくてもよいと思うが、計画本文では、より具体的な内容を示す必要があるのではないかと考える。

(事務局)

構想、理念、計画の違い、用語の統一に関して、見ていただくのに、構成として少し分かりづらい、つかみにくい部分もあるかと思う。今後、該当箇所や全体の構成も含めて、いただいたご意見も参考に、調整する。計画案修正後に委員の皆さんにお示しする。

(受託者)

行政としての覚悟や具体的な取り組みの方向性が表れる部分として、総合戦略が重要になると考えている。総合計画は、住民と行政が共有する計画であり、行政が取り組む主要な内容を示すものである。一方、総合戦略は、国の地方創生施策に基づくもので、行政にとっては財源確保の面でも重要な計画であるが、住民から見ると分かりにくい部分もあると思われる。

現在の総合戦略は一般的な内容が中心で、県の総合戦略を踏まえた構成となっているため、今後は各課において具体的な取り組みを盛り込み、KPIを含めて、インフラ整備、農業、林業など各分野で町としてどのように取り組んでいくのか、その方向性が見える内容にしていくと良いと考える。

(委員)

基本目標2のすでに取り組み始めている町内の団体で、奥三河エレトレをご記載いただいている。奥三河エレトレを通じて、7月1日に株式会社あかりを設立しているので変更をお願いしたい。

基本目標 5 の目指す姿で、町民自身が水源地としての価値を再認識し、環境保護意識と誇りが醸成されているという点について、前回の審議会での意見を取り入れていただいた。

(委員)

15 ページに記載している「事業者」が具体的に誰を指しているのか分かりにくい。農協や商工会などの団体なのか、個人商店等を含むのか。また、事業者が担う役割についても明確にした方がよい。特に農協については、行政の取り組みと重なる部分もあるため、整理が必要ではないか。

18 ページの基本目標における人材育成について、「担いたくなる農業と特産づくり」というテーマでよいのか疑問がある。特産品を作るだけでは付加価値の創出には限界があり、どのような支援を行うのが重要である。スマート農業への支援についても、実際に町としてどこまで取り組めるのか検討が必要ではないか。

また、新規就農者や産業の担い手不足が課題となる中で、新規就農に対する支援策が不足しているように感じる。物価高騰により、例えばトマト栽培用ハウスの整備費も大きく上昇しているため、付加価値を生み出す農業への支援について検討してほしい。

空き家対策と同様に、空きハウスについても農協と連携しながら活用を進め、地域産業の維持につなげてほしい。

6 次産業化については、個人で取り組む場合、食品衛生法への対応などハードルが高く、加工品づくりを断念している事例もある。今後の 6 次産業化の方向性や、町としてどのような未来像を描いているのか示してほしい。

19 ページの行政の役割に記載している「既存企業の後継者発掘・育成支援」について、農業者も対象に含まれているのか確認したい。また、「経営サポートや 6 次産業化の支援などによる稼げる農林業への発展支援」といった表現について、具体的に助成制度なのか、相談・伴走支援なのか、内容を明確にしてほしい。

さらに、29 ページの総合戦略に記載されている「農業を始めた人の数 20 名」という KPI について、基本計画との関連性が分かりにくい。基本計画と総合戦略が十分に連動した内容となっているか確認が必要である。

(受託者)

ご指摘の趣旨は、新規就農の促進と、そのための空きハウス活用の必要性と思われる。18 ページの内容に反映できるよう検討したい。

(産業課長)

既存企業の後継者の発掘・育成については、農業・林業分野の事業者も含めて考えている。

6次産業化の支援等については、現在実施している商工業活性化補助金等を活用し、特産品開発や販路拡大、人材育成につながる支援を行っていききたい。

また、新規就農に伴うパイプハウス設置については、資材価格の高騰により参入へのハードルが上がっていることは認識している。行政としても、パイプハウス設置に関する補助制度等を活用していただけるよう周知していききたい。

（委員）

5 ページの産業振興にある「農林業の担い手不足の解消に向けた新たなアプローチ」について、高校では今年度からスマート林業を本格的に開始している。高校としても、スマート林業に対してどのような支援や助成が受けられるのか非常に関心を持っている。

また、学校として存続していくためには子どもの数が大きな課題である。資料では田口高校への進学率が48.5%とあるが、これは10年間の平均値であり、令和8年度は設楽町からの入学者が30%を切っている状況である。さらに、人口ビジョンでは2060年の小学生人口を82人としており、1学年10～15人程度という目標になるが、その人数では学校を存続させることは非常に厳しいと危機感を持っている。

設楽町の子どもを増やすことは簡単ではないため、町外から生徒を呼び込み、将来的に設楽町へ定住してもらえよう取組も必要である。現在も寮はあるが、教員体制の都合で平日のみの受入れとなっている。今後、遠方から多くの生徒を受け入れるためには、週末や長期休業中も受け入れられる体制や、空き家の活用、新たな住環境の整備など、町としての支援や構想を検討していただけるとありがたい。

18 ページの基本目標2の施策「高校連携・林業アウトドア人材育成」については、高校の新たな取組を反映していただいているが、スマート林業やアウトドア教育の内容に実際取組とのずれがあるため、学校との意見交換を重ねながら内容を整理し、必要な支援や助成についても連携して検討していただきたい。

また、19 ページの行政の役割にある「田口高校、小中学校、事業者や地域等の連携による担い手育成」については、林業の担い手育成には各種資格の取得が重要である。資格取得には数万円、場合によっては10万円を超える費用がかかるため、資格取得費用への助成など、生徒が高校3年間で多くの資格や経験を得られるような支援を検討していただきたい。そうした取組が、少人数だからこそできる田口高校の魅力づくりや、10年先の田口高校の姿にもつながると考えており、計画にもその方向性を盛り込んでいただけるとありがたい。

（受託者）

具体的な予算や事業内容については、個別の施策の中で検討するものであり、総合計画の中で詳細まで記載することは難しいと考えている。一方で、18 ページの③「高校連携・林業アウトドア人材育成」の方向性について、より良い表現や盛り込むべき内容があれ

ば、ご意見をいただきたい。

(委員)

アウトドア分野については、計画では観光ガイド等と記載されているが、現在取り組んでいる内容のウエイトとしては、防災教育や環境教育の要素が大きい。

防災教育では、ロープワークや水の確保など、非常時に生きる力を育成する取り組みを行っている。また、環境教育では、設楽町の豊かな自然について学びながら、自然を活用し、守っていくことや、地元を知り、地元を活用していくことをテーマとして取り組んでいる。外部講師も招き、週1時間という限られた時間の中で、内容の濃い学びとなるよう計画している。開始してまだ2か月程度であり、今後どのような方法がよいか模索している段階である。

スマート林業については、数年前からドローンスクールの協力を得て、ドローン操作や測量に関する学習を行っている。今後は、ICT等も活用しながら、スマートな林業や仕事としての魅力を感じられる取り組みにつなげていきたい。

こうした取り組みについて、自治体とも連携しながら、地域の特色を生かしたカリキュラムづくりを進めていきたいと考えている。

(受託者)

ご説明いただいた内容が反映されるよう調整したい。

(委員)

教育分野について、現在、設楽町の教育に関する基本計画も並行して策定されていると思うが、総合計画・総合戦略と教育振興基本計画の位置付けや関係性が分かりにくい。総合計画を踏まえて教育基本計画が策定されるのか、それとも両計画を並行して進めていくのか確認したい。

また、28ページの小中学校の取り組みについて、町の中で小中学校が果たす役割や取り組みとして記載されている内容が少ないように感じる。難しい部分もあると思うが、もう少し具体的に示せるものがあるのではないかと。

その中で記載されている「コミュニティスクール体制」について、田口高校でも取り組んでいるが、高校におけるコミュニティスクールと小中学校におけるコミュニティスクールの違いや共通点、また、今回この項目を位置付けている考え方を確認したい。令和11年度という目標年度を設定していることにも意味があると思うため、その意図も伺いたい。

さらに、28ページの教育分野における数値目標③について、他の学校でも一般的に取り組まれている内容のように感じるが、この数値目標を設定した意図についても説明いただきたい。

(事務局)

総合計画自体は本町の最上位の計画という位置づけである。今後、教育振興基本計画を策定するという事で、事務的な作業が今進んでいるところかと思う。計画としては別のものではあるが、相互に関係している。総合計画に関しては、教育委員会も策定に携わっているので、全体の状況を把握できると考えている。

(教育課長)

教育振興基本計画については、現在、総合計画と並行して策定を進めている。今年度中の策定を予定していたが、学校のあり方等の検討も進めていることから、来年6月頃の策定を目途としている。本総合計画を踏まえた教育計画という位置付けであり、両計画が連携する形で進めていく。

コミュニティスクールについては、令和11年度を目標に設置を検討している。田口高校で既に取り組まれていることは承知しており、他市町村の事例等も参考にしながら検討していきたい。現在も各学校では地域の方々を招き、学校活動に関わっていただいている状況があるため、それを仕組みとして整理するとコミュニティスクールにつながるものと考えている。初めての取り組みとなるため、将来的に継続できる形となるよう時間をかけて検討していく。

KPI③「地域の素材を活かした学習の実施回数」については、地域内外に出向き、地域の方から話を聞いたり、体験活動を行ったりする取り組みは既に実施されていると認識している。その上で、今後も継続・重視していきたい取り組みであることから指標として設定した。なお、目標回数については意見を踏まえ、改めて検討する。

(委員)

13ページの将来像は、抽象的でもよく、一番夢を語れるところであり、これを見てワクワクできなかったら、この先読んでもらえないと思う。「面白そうな町だ」「何かやりそうだ」と感じてもらえる入り口になる部分であり、あまり長い文章ではなく、イメージが伝わる言葉でよいと思う。また、「減っても」「衰退」といったマイナスな言葉はなくても、「今より元気になれる町」といった表現で十分伝わるのではないか。「子育てができる」と「生涯を過ごせる」は分けて短くしてもよいと思う。

将来像を読んだときに、「どういうことをしたい町なのか」「何を目指している町なのか」がイメージとして伝わり、その後に具体的な取組を書いていく流れがよいと思う。また、自分たちが分かる言葉で書いても、読む人には伝わらないことがある。いきなり横文字を使われても、普段使わない人には意味が分からず、そのまま読み進めても内容が伝わらない。読む人の立場に合わせた言葉選びをすることで、将来像とその実現に向けた取組が伝わりやすいと思う。

16 ページの実現ストーリー2「地域内外の人たちが情報交換・交流できるプラットフォームを構築します」については、誰が構築するのかという主語が見えない。町が行うのか、団体と協力して町と連携しながら進めるのかなど、主語が分かるようになると、誰が何をするのかより明確になると思う。

全体として、専門的な知識がある人には理解できても、知識のない人にも分かるような書きぶりになると良い。概要版から QR コード等で詳細版へ誘導することはよいと思うが、詳細版も「知りたくて見たのに何かが書いてあるか分からない」ということにならないよう、分かりやすい表現になると良い。

また、町も計画に書いた内容に沿って取り組んでいただきたい。例えば、「行政施設の貸し出し等により拠点づくりを後押しします」と書いてあるのであれば、実際にもその方向で対応してほしい。以前、施設の活用について具体的に提案したが認められなかったことがあり、書いた以上は責任を持って取り組んでいただきたい。今後 10 年間の計画であり、担当者が変わっても、この計画に準じて進めていただきたい。

田口高校の寮のような課題についても、町の支援だけで全てを解決するのは難しい部分があると思うが、「今こういうことに困っている」「こういうことができる企業や人材を募集している」といった情報を外に発信することもあってよいのではないかと考える。そうした情報を見て関わりたいと思う人や問い合わせをする人が出てくる可能性もあるため、困りごとを恥ずかしがらずに発信していくことも、今後あってよいのではないかと思う。

(事務局)

具体的にご指摘いただいた点について、参考にさせていただきたい。

先ほどのご意見にもあった分かりにくいと感じられる部分については、整理が必要と思うので、今後の調整の際に取り入れていきたい。

総合計画は町の最上位の計画であり、策定することが目的ではなく、実際に推進していくことが非常に大事になる。担当職員の異動等により人が変わることはあるが、計画策定の経緯や考え方を引き継ぎながら、皆さんと一緒に推進していくことができたと思う。そのような体制ができるように引き続き取り組んでいきたい。

(委員)

先ほどの農業についての話に関連して、新規就農者として移住・就農した経験から、老朽化したハウスや時代に合わなくなった設備の更新などに対する支援があると、新規就農者にとって非常に助けになるのではないかと思う。そうした支援について提案したい。

また、計画全体について、住民や事業者が主体となってまちをつくっていくという考え方は非常によいと思う。一方で、実際にアイデアを持ち、それを行動に移していく人がどれだけ出てくるのかという点については少し不安がある。

都市部のように人口が多い地域であれば、新しいアイデアを持って行動する人が現れる

可能性もあるが、人口減少が進む中で、そうした若い人材や新たな発想を持つ人が減っている状況であり、主体的に取り組む人が十分に出てくるのか懸念している。

この計画を進めていく以上、10年後にうまくいかなかったということにならないよう、確実に実現していく必要があると思う。そのため、取り組みを進める中で、想定していた方向と異なった場合に、どのように軌道修正やバックアップを行うのか、また、その際に誰が旗振り役となるのかが現時点では見えにくい。その点について考え方を伺いたい。

(事務局)

旗振り役については、この計画を策定するにあたり、すでに地域で活動されている住民の皆さんを中心に、一緒に計画を作り上げてきたという経緯がある。そのため、まずは現在動いている皆さんをどのように支援していくかという視点で計画を策定していることをご理解いただきたい。

その上で、取り組みを進める中で、当初想定していた方向と異なる場合や、さらに別のサポートが必要となった場合には、進捗管理や振り返りのための住民会議を開催し、その場で皆さんと議論しながら修正や新たな方向性の検討を行っていききたい。

これまでの取り組みの評価や、今後の作戦会議・戦略づくりについても、住民の皆さんと一緒に進めていく形で、計画の進捗管理を行っていききたいと考えている。

(委員)

住民会議で進捗管理を行っていくとのことだが、計画策定後に、計画に記載されていない新たな取組や、足りない部分、修正したい内容が出てきた場合には、住民会議での議論を通じて、柔軟に方針や施策を見直していくことは可能か。

(事務局)

大きな目標や目指すべき将来像については、計画の軸となる部分であり、そこがぶれないようにすることが重要だと考えている。今回議論しているのは、まさにその目指すべき姿をどう設定するかという部分である。

取り組みを進める中で、目的や目標自体が実態と合わないということになれば、見直しが必要になる場合もあるが、基本的には将来像を定め、そこに向かって必要な政策や施策を進めていくという考え方である。10年間の計画となるため、その点についてはご理解いただきたい。

例えば、「今よりもにぎやかで良い町を目指す」という目標を掲げた場合、その実現に向けてどのような政策を進めるかを考えていくことになる。現在設定している目標は、将来目指すべき姿として設定しているものであり、それを下回るような方向に進めるものではない。

その上で、目標達成に向けた具体的な施策や取り組みについては、状況に応じて常に見

直し、ブラッシュアップしていくことは可能であると考えている。

(委員)

これまで移住定住の促進に取り組み、若い家族世帯を地域に呼び込む活動を行ってきた。今回の将来計画においても「安心して子育てできるまちづくり」が重要なテーマとして掲げられているが、移住定住を進める上では、地域に保育園や小学校が残っていることが非常に大きな要素であり、地域としても強い思いがある。

一方で、行政から将来的な施設の統廃合に関する話が聞こえてくることがあり、地域としては不安を感じている。これから地域を盛り上げよう、若い世代を呼び込もうとしている中で、行政側から減らす方向の話が出ることは、地域の意欲をそぐことにもつながる。

総合計画の中でも、可能な限り地域の施設を維持していくという方向性を示していただきたい。

(事務局)

総合計画は、どのようなまちを目指すのかという目標を立てているので、学校の数などの記載はない計画ということは、ご理解いただきたい。

(委員)

しかし、統廃合という方向は出さない、保存するという方向、姿勢を出してもらいたいという気持ちでいる。

(事務局)

ご意見として参考とさせていただく。

(委員)

計画案を読み込むと、気になる点や改善したい点が多くあると思う。会議の場ですべてを議論することは難しいため、各委員がメールやファックス等で、該当ページや文章を示しながら具体的な意見を事務局へ提出してはどうか。

その意見を踏まえて事務局で再検討し、必要に応じてパブリックコメントの前にもう一度審議会を開催し、計画案を確認する機会を設けてもよいのではないか。

(事務局)

後日、各委員に計画に対する意見を送っていただくようご案内する。各団体の名前を入れていいかなども含めて、回答いただきたい。

(4) 設楽町第3次総合計画／第3期総合戦略 策定スケジュールについて

【資料 4】設楽町第 3 次総合計画／第 3 期総合戦略 策定スケジュールに基づき事務局から説明。

○ 質疑・意見

本件について、質疑・意見はなかった。

○ 閉会

次回の審議会は、10 月頃開催し、計画案の審議を行う。